

A そう思う B 大体そう思う C あまりそう思わない D そう思わない1

精華幼稚園教育目標		ひとり立ちする子	自己評価		学校関係者評価	
三つの重点	1 経験・体験の幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	経験は工夫、創造の源であり、日々の遊びは子どもたちに限りなく経験の幅を広げさせる。私たちは、子どもたちが精いっぱい遊べるよう、毎日童心に帰ることを心掛けている。	A	先生たちはどの子にも分け隔てなく声をかけ、遊びに迎え入れる。子どもたちが相談するような場面に出くわすと、先生も相談者の一人に加わっていている。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A		A	
	2 人間関係調整力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	日々教育、保育ばかりではなく園そのものを開いているため、子どもたちは人と接する機会が多い。好ましい環境設定と言える。	A	園を訪れたとき、子どもたちがよく声をかけてくれる。園外でも期待したい。先生たちが鑑となってほしい。
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A		A	
	3 聞く態度・聞き取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	本園の子どもたちのここの一番の集中力は群を抜いている。近隣小学校からは、本園から入学してくる新一年生たちの話を聞く姿勢に驚嘆の声が寄せられている。	A	先生たちは普通の大きさの声で話しているのに、子どもたちはみんな集中して聞いている。普段の指導の積み上げが見て取れる。
		【子どもの状況】子どもたちの話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A		A	

教育目標具現に向けて育てたい七つの子ども像	1 自由遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	朝、子どもたちの受け入れがひと段落すると、私たちは率先して園庭に出て、子どもたちの遊びの相手をしようと心がけている。園庭は毎日大賑わいである。	A	先生たちはみんな子どもたちと同じ目線で子どもたちに向き合い、子どもたちを迎え入れている。子どもたちは安心して遊んでいる。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみなこのびと遊びを楽しんでいる。	A		A	
	2 集団遊びができる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりや促したりする。	A	楽しそうだと感じたら、子どもたちは学年を越えて遊びの中に入ってくる。「はないちもんめ」「だるまさんがころんだ」は定番になっている。	A	先生たちに学年学級の垣根がない。このことが子どもたちの集団性を高め、遊びを盛り上げているようだ。
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A		A	
	3 園行事に楽しく参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で行事に子どもの思いを反映させている。	A	私たちは、子どもの立場に立ってよく考え、よく頑張っている。しかし、園行事の充実は、一方でゆとりの時間を圧迫する。	A	保護者も手伝いを兼ねて行事に参加できるので、先生たちとの距離感が近く、先生たちの気持ちがよく分かる。
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A		A	
	4 自分のことは自分でやる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	待つことができる、待つてあげられる私たちである。年齢に応じて手順、段階を追い、「ここまではやってあげるけど、続きは自分でやってみよう。」と呼びかける。	A	先生たちは子どもの心をよく見抜いている。心はかけるが手はかけずという基本姿勢で個々の対応をしている。
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	A		A	
	5 美しくあいさつできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	朝のお迎え時は、家での生活習慣が如実に表れる。3回、4回と呼び掛けてやっと応じる子もいれば、結局応じない子もいる。家庭の意識化が必要と強く感じる。	A	先生たちの意見に同感。挨拶は親がしなければ子もしない。家庭のしつけの第一歩。親は率先してお手本を見せるべきである。
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	B		A	
	6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	私たちは、子どもの気持ちを考えながら、子どもの立場に立って、聞き上手な教師と話し上手な教師を心がけている。個人差はあるが、子どもたちは総じてよく話してくれる。	A	子どもたちはその時の気分で饒舌になったり寡黙になったりする。話しやすい、話したくなる雰囲気づくりが大切である。
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、」と話し出す。	A		A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇（経験・体験）の広がりや求めて、積極的に園外保育に出かける。	B	園外保育の大切さは十分分かっているが、物理的に十分な時間が生み出せない。行事の精選、縮小等見直しが急務である。	A	園外保育に充てる時間が足りない上にこのコロナ禍。先生たちの気持ちはよく分かる
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がりや、確かな歩みを見せている。	B		A	